

～校長室から～

平間だより（第4号）

読者のみなさん、こんにちは。今年も猛暑が続きますが、いかがお過ごしでしょうか。学校は長い夏休みに入り、生徒のいない校内はひっそりとしています。校外では、連日部活動や各種大会で生徒が活躍をしています。今日はその生徒たちの頑張っている様子をお伝えしたいと思います。

高校生ものづくりコンテスト神奈川県大会より

昨年、この大会の「化学分析部門」に出場し2位となり、関東大会まで駒を進めた3年生のAさんは、入賞に届かなかった関東大会後に、「来年は絶対全国大会に行く！」と宣言していました。そして迎えた今年の県大会。見事に1位を獲得。まずは第1ハードルを突破です。Aさんにとっては、県大会も次の関東大会もすべて全国大会への「予選」ということになっているのでしょうか。普段はごく普通の女子高生ですが、ここぞという時の集中力と度胸は、並みの男子を蹴散らすものを持っている頼もしい生徒です。きっと将来は、いま日本が活用できていないエネルギー資源？の一つである女子力を大いに発揮してくれるでしょう。

もう一つ。同じく「電気工事部門」に出場した生徒の活躍です。開会式後に、出場する3年生2人に声をかけたところ、「緊張してます」とのこと。周りにいた教員も、「今朝はなんか元気がないんで聞いたところ、めっちゃ緊張してるからみたいです。」とのこと。私からは、「そりゃ緊張するよな。大丈夫だよ、緊張するのは正常な証拠だから。」と。すると生徒からは、「そうですよね。」と笑みがこぼれました。「よし、じゃ頑張って」と背中を押して会場へ送り出しました。結果は？というと、見事に2人で1位、2位のワン・ツーフィニッシュを達成。後から練習指導にあたった教員に聞くと、「彼らはある程度自信があったみたいで、それが逆にプレッシャーになって緊張していたようです。」とのこと。期待されることのプレッシャーを経験し克服した2人。これからもっともっと大きくなっていくことでしょう。

アウトドア部の合宿より

「子どもの理科離れ」というフレーズがメディアに登場するようになってから久しい。一口に「理科」と言っても、物理・化学・生物・地学の4分野があるわけですが、アウトドア活動はそれらを網羅しているのではないのでしょうか。先にこの平間だより1号でもご紹介しましたように、本校には正式な部活動としてのアウトドア部があります。今夏、そのアウトドア部が丹沢でキャンプ合宿を行ったときの様子を、引率の顧問よりの聞きかじりですが、ちょっとだけご紹介させていただきます。

野営地は西丹沢のキャンプ場です。夏ですから、本来ならもっと涼しい高地キャンプに

すべきですが、とにかく生徒たちは、「自然に触れたいけど、出費の少ない近場でなければ行かない」ということで、夏真っ盛りにもかかわらず低地の丹沢でキャンプし、山に登るという計画になったそうです。2泊3日というショートキャンプでしたから、活動といっても近くの低山に登ることと、キャンプ場での溪流遊びだけです。山登りでは、暑さと山頂の見晴らしの悪さ、そして、まとわりつく虫たちで、「もう二度と山登りはしない」という生徒もいたようです。自然に触れたいと言っていた“自然”とはいったい何だったのか、です。暑さ、見晴らしの悪い山頂、飛び回る虫たち、それらが正に自然そのものなのに。捨てる神あれば拾う神あり。溪流に拾う神がいました。清らかな水の流れと、水中を泳ぐ魚の姿に大いに感激した生徒がいたようです。こんなきれいな川に入ったこと、川の中を泳ぐ魚を見たこと、が初体験という生徒がいて、「来てよかった」と。

自然とは何か。本来は私たち人間も自然の一部であるわけですが、私たちはつい自分たちを自然から外し自然というものを定義し自然を見てしまいます。それだけ私たち自身や私たちの生活が不自然になってしまっているからなのでしょう。

生徒たちがこのキャンプで初体験したことは、身体化され、彼らのこれからの生活になんらかの影響を与え続けていくことでしょう。もちろん彼らにとっての自然へも。

2014年 葉月
角田